

第4回土曜AL(アクティブラーニング)を実施しました

今年度4回目の土曜ALを11月13日(土)に実施しました。今回は、3講座を実施することができました。

講演①「“好き”を仕事につなげる学び方と 統計・データ分析」

((株)baton 渡辺 航平 様)



東京大学在籍時から「QuizKnock」の一員として「東大王」や「Qさま！」など多数のメディアに主演するほか、クイズや学習に関する書籍も数多く出版している、太田高校時代の鑑田先生の教え子である「こうちゃん」こと渡辺航平様にご講演いただき、230名が参加しました。自身の高校時代の体験や現在の仕事で必要とされる知識に関連して、学習に対する動機付けとクイズ研究に関する話をいただきました。渡辺様には時間を超過しても、生徒の写真やサインの要望に応じていただき、生徒にとっては、思い出深い時間となったようです。

生徒の感想

- 何のために勉強するのか？ その理由に、自分が納得していなければ勉強は続かない、という事を聞き、今までの自分を振り返って、勉強に対するモチベーションが上がらなかったのは、勉強する理由があいまいで、自分で納得する領域までいっていなかったのだなと思いました。
- 「勉強」についての話をたくさんしていただき、今の自分にとっても響いた。まだまだ大学受験は先のことだと考えていたが、今のうちから勉強についての姿勢を見直していくことが大切だと思った。

講演②「世界の水・資源問題と材料科学の新潮流」

(信州大学 工学部 物質化学科 准教授 林 文隆 様)



信州大学工学部の林先生に ZOOM で講演をしていただき、16名が参加しました。近年、SDGs や仮想水のトピックで“水”が注目されており、本講演では、まず昨今の環境やエネルギー問題(特にLi、電気自動車)についてご説明していただき、次に、日本のお家芸である材料科学の潮流や話題となっているインフォマティクスやビッグデータについてご紹介いただきました。生徒の質問にも丁寧に答えていただき、非常に有意義な講演会となりました。

生徒の感想

- 今回の講演を通じて、より化学に対する考え方を深めることができました。持続可能な社会の実現のためには何をすべきであるか、など、日常生活から、課題に対して積極的に科学的感覚を持って生活していきたいと思います。
- 物質材料が社会にどのように関わっているのか、その分野の今後の可能性について視野を広げられ、材料系も楽しそうだなと思いました。また、自分の周りをよく観察することも大切なことだと思いました。

講演③「大学での学びと研究 ～自身の将来について考えるために～」

(信州大学 繊維学部 先端繊維・感性工学科 先進繊維工学コース)

教授・学部長 森川 英明 様)



全国で唯一の繊維学部から森川先生にご来校、ご講演いただき、30名が参加しました。繊維学部でどのような教育・研究がおこなわれているかをご紹介いただきました。繊維科学（ファイバーサイエンス）の研究は繊維産業だけでなく、多岐にわたる分野に波及していて、現代の先端科学技術を支えていること、繊維学部で学び研究することの意義と社会への貢献についてご講演をいただきました。時間を超過しても生徒1人1人の質問に丁寧に回答していただき、生徒にとっては大変有意義な講演会となりました。

生徒の感想

- 繊維学という言葉は初めて聞いたので、繊維がどのように社会で使われているのか考えたことがあまりありませんでしたが、文化的にも化学的にも大きく貢献をしていることがわかり驚きました。群馬は蚕糸が盛んで、私の地域も昔から養蚕が行われていましたが、その時代では考えられないほどの強度と汎用性をもっている繊維が生まれていることに技術の進歩を痛感しました。これからの技術に欠かせない繊維の最先端のお話をありがとうございました。
- 繊維は細くて長い形態を有するマテリアルということで、私が元々考えていた繊維＝衣類、糸のイメージが、この講演で大きく崩れて、自分の考えが打ち破られる良い機会となりました。こういった自分の考えを崩してくれる経験が、専門性を伴って自分の頭の中に知識となって入れられることがとても嬉しいです。また繊維という広い世界を見ていたいと思いました。